

西新井納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金で守られる生活」

足立区立 江北桜中学校

一年 猪瀬 さくら

私は学校が大好きです。なぜなら学校では友達がたくさんいて、先生も優しく、親しみやすいし、部活動では先輩などとコミュニケーションをとったり楽しく活動ができるからです。また、学校では難しい問題でも、先生が丁寧に教えてくれるのでとてもわかりやすいです。

しかしその学校に行けない人たちもいます。以前、テレビでゴミ捨て場でゴミを集めて、売る仕事をしている少年を観ました。教育よりも家庭の仕事が優先されるため、学校に通わせてもらえないそうです。普段、私たちがあたり前のように学校に通うことができないだけではなく、その日の食べる物さえ、手に入れることが難しい子どもたちがいることを知りました。私の住む国とこの少年が住む国では、何が違うのでしょうか。

日本では、子ども一人が小学校を卒業するまでに約六百万円の税金が使われていて、中学校を卒業するまでに約三百万円の税金、合計九百万円の税金が使われているそうです。税金によって、学校の施設や教科書、パソコン、先生たちの賃金、私が部活で使っている楽器などもまかなわれています。さらに、私の住む足立区では給食も無償になり、学ぶ環境が税金によって整えられています。

日本では、教育に使われている税金は、国税の他に都道府県や市区町村の地方税も使われており、私の住む東京都では、八千九百六十五億円が教育費として使われています。これは、全体予算の約十一パーセントもあるそうです。

一方、開発途上国では学生一人に対する政府の支出額自体、日本などの先進国よりも低くなっています。アフリカ諸国では学生一人に使われる教育のための税金は小学校では五百三十三ドルとなり、日本の約十二分の一でしかなく、中学校では九百二十五ドルとなり日本の約八分の一にすぎません。教育に関する税金の支出額が少ない国では識字率が低く大学への進学率も低くなってしまうです。それでは、職業の選択肢も限られてしまい、教育を受けられないことで教育格差が生じ、賃金の高い仕事に就けなくなってしまうです。

私たちが住む日本では、憲法によって教育を受ける権利が定められています。税金を使うことによって、お金がある人だけが学ぶのではなく、誰でも学校に通い学ぶことができるのです。

新しいことを学び、友達や先生と人間関係を築きながら、社会に出るための準備をするためにも学校はとても重要な場所です。学校に通えることはあたり前と思っていましたでしたが学べる機会を与えてもらえていることを意識し、感謝の気持ちを忘れずに授業にとりくみたいのです。